県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.85
2018年
6.7月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000(代表)　ＴＥＬ：079-497-7011(地域医療連携部直通)　ＦＡＸ：079-438-3756(地域医療連携部直通)

もくじ

- 地域医療連携会議を開催開催いたしました …… 1
- 内視鏡センターのご紹介 …… 2
- 循環器内科 …… 3
- 乳腺外科 …… 4
- 整形外科 …… 5
- 泌尿器科 …… 6
- 初期研修医の紹介 …… 7
- 外来診療表 …… 8

第13回 地域医療連携会議を開催いたしました

平成 30 年 6 月 21 日（木）18 時より市内尾上町の“ミル・アンジュ”において、第 13 回地域医療連携会議を開催させていただきました。

地域の医療関係者の皆様に当院のことを知っていただきたいということと、顔の見える関係を築かせていただきたいということで、年 1 回企画し今年で 13 回目となりました。今回も多数の皆様のご参加をいただき、本当にありがとうございました。

○第一部：講演会と各診療科紹介

1．県立加古川医療センターの現状について　【院長　原田　俊彦】

改めて病院の理念や沿革、政策医療をはじめとする特色のほか、今年度の病院経営基本方針などのご説明とあわせ、今回は、政策医療である救命救急医療、ドクターヘリの運行状況、災害拠点病院としての取組みなどに絞ってご報告しました。

最後に、トピックとして「FIFA ワールドカップ」の話題をほんの少々。

2．内視鏡センターの取り組み～内視鏡治療を中心に～　【消化器内科部長兼内視鏡センター長　垰本　喜雄】

「内視鏡センター」開設までに至るまでの道のり、これまでの検査や治療の実績、体制、具体的な症例への対応のほか、これからの内視鏡治療の展望や今後の取組みの方向などについてお話ししました。

3．脊椎外科センターのご紹介　【部長（手術調整担当）兼整形外科部長・脊椎外科センター長　高山　博行】

「脊椎外科センター」の狙いとするところ、これまでの診療の実績や体制、特色、今後の取組みの方向などのほか、脊椎・脊髄に関する多くの多様な症例とその治療について詳しくお話ししました。

4．各診療科紹介（20 診療科と看護部、地域医療連携部）

今回、初めての取組みとして、各診療科から直接、診療の実績などをアピールさせていただきました。ご参加の皆様にお知らせしたいことが多く、かなりの時間オーバーとなってしまったことをお詫びいたします。

○第二部：意見交換会

加古川医師会長の中田邦也先生のご挨拶をいただき、和やかな雰囲気の中、第二部がスタートしました。日頃、お世話になっている地域の先生方、各関係者の皆様から大変貴重なお話しをお伺いすることができました。

今後も切れ目のない連携にこころがけ、地域住民の皆様に貢献できるよう精進していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

内視鏡センターのご紹介

消化器内科部長兼内視鏡センター長　坂本喜雄（さかもと）

平成 30 年４月１日をもって内視鏡センターが設立されました。

といっても、外形的には大きな変化があるわけではありませんが、内視鏡センターとして情報を発信し、内容をより良いものに変えていくことができるようになると考えています。

また、今まで以上に、消化器外科医、救急医、総合内科医などと広く協力し、また、内視鏡専門医や消化管病理医との交流のほか、近隣の病院・医院へ積極的に情報を発信して患者様の紹介や逆紹介を増やし、地域連携を通して利用していただきやすくしていきたいと考えています。

現在、内視鏡センターでは、上部消化管内視鏡（食道、胃、十二指腸）、下部消化管内視鏡（大腸）、バルーン内視鏡、カプセル内視鏡、胆膵内視鏡（ERCP や EUS）の診断治療を行っています。また、内視鏡止血術や ERCP 等の緊急内視鏡にも対応し、食道ステントや大腸ステントを挿入など緩和的処置も施行し、臨床上の役割は多岐に及びます。

日常診療では、常に安全で苦痛のない内視鏡検査を心掛け、患者様の不安をできる限り取り除くよう、また、プライバシーの確保にも配慮しております。そして、検査前後の安全確認、検査中のモニタリングなど常に安全な内視鏡検査・治療を心がけています。

さらに、高度な内視鏡技術を提供できるように最新の機器での対応に努めており、当院は、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会認定施設に認定され、内視鏡専門医を目指す医師の教育・育成も行っています。

平成 13 年（2001 年）に県立加古川病院に赴任以来、内視鏡室をずっと見てきました。2003 年には早期胃癌を一括切除できる ESD（内視鏡的早期胃癌粘膜切開剥離術）という方法が保険適応になり、さらに、近年のデジタルの進歩に伴い内視鏡の進歩も著しく、どんどん小さいがんが見つけられるようになっています。それに合わせて新しい機器・技術を取り入れてきました。内視鏡の魅力は、病変を自分で見つけて診断し自分で切除し治療するように自己完結できるところです。

内視鏡検査と治療は、2009 年に加古川医療センターへの移転・開院後も進歩し続けてきました。このたびの、内視鏡センターとしての開設により、当地加古川で、より安全で質の高い医療を提供できるようになれば幸いです。

循環器内科

循環器内科部長　**岩田幸代**

地域の先生方にはいつも大変お世話になっております。

毎日、循環器外来をオープンしています！

岩田、福田亨医師、片嶋隆医師の医師が３名と非常勤　住本医師で診療にあたっていますが、今年度から毎日、循環器外来診療を行っていますのでご相談症例は曜日を問わずご紹介ください。

丁寧な内科をベースとした循環器診療で納得！

通常の循環器疾患のご紹介はもちろんですが、睡眠時無呼吸症候群の簡易検査から精密検査、胸痛症候群（原因の解明にできるだけ努力します）、肺高血圧や意識消失症例（植え込み型ループレコーダーの植え込みも行っています）、下肢浮腫症例など、内科医としても長いキャリアからできるだけ柔軟に幅広く丁寧に対応させていただいております。

多疾患をもつ患者さんの周術期も安心に！

多疾患をもつ患者さんでも安心・安全に治療が受けられるように、生理検査のメンバーの協力のもと各科のバックアップにも努めています。

これからもお気軽に症例をご紹介ください。
至らぬ点、お気づきの点はドシドシご指摘ください。
改善に向けて変更してまいりますので、よろしくお願いいたします。

■外来担当　H30.4 ～

月	火	水	木	金
福田	住本	岩田	片嶋	岩田

■診療実績　29 年度

冠動脈造影	186 件
経皮的カテーテル治療	54 件
ペースメーカー治療	13 件
外来患者数	6101 人

乳腺外科

部長(化学療法担当)兼乳腺外科部長　**石川　泰**

2018年4月より県立加古川医療センター乳腺外科は2名の医師（石川　泰S59卒、小林貴代H12卒）体制になりました、今後ともよろしくお願いします。

当院の特色

当院は10年以上乳腺疾患を専門とした診療を続けてきた日本乳癌学会の認定施設です。この間2000件以上の乳腺手術を行ってきました。引き続き診療を行う2名の医師のほかに乳腺診療に必要なさまざまな経験と資格を取得したスタッフが充実しています（がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師、リンパ浮腫療法士・がん薬物療法認定薬剤師・家族性腫瘍コーディネーター)。今後も患者さんとご家族をしっかりと支援するように努めていく所存です。

診療内容

乳がんの検診･初期治療（手術･薬物療法･乳房再建)･フォロー･再発症例の治療および緩和ケアのほか、良性乳腺腫瘍・乳腺炎・乳輪下膿瘍の治療を行っています。

手術部門・乳房再建

QOLの高い術後生活が送れるよう、術中迅速病理診断を駆使しながら乳房温存手術とセンチネルリンパ節生検を行っています。近年要望の多くなった乳房再建に対しては、乳房再建用エキスパンダー・インプラント手術（一次一期・一次二期・二次再建すべて）の実施施設認定を毎年更新し、形成外科医とともに積極的に乳房再建に取り組んでいます。

リンパ浮腫外来

乳がん手術の後遺症であるリンパ浮腫に対し、当院では2013年よりリンパ浮腫教室とリンパ浮腫外来を開始しました（保険適応外)。現在ではリンパ浮腫療法士も3名と充実し､リンパ管吻合術（形成外科）も行われており、多岐にわたりリンパ浮腫の改善に努めています。

遺伝カウンセリング

当院の患者さんで遺伝性乳癌に関する不安をお持ちの患者さんには、家族性腫瘍コーディネーターとともに遺伝カウンセリングを行っています。

今後乳がんの遺伝情報は初発乳癌患者においては手術術式決定（乳房温存術＋放射線治療または乳房切除＋乳房再建術）の重要な情報、乳癌既発症者においてはリスク低減手術（反対側リスク低減乳房切除術やリスク低減卵管卵巣摘出術）の必要性を判断する情報、再発乳癌患者においては薬物の効果を予測する上での重要な情報になってきます（コンパニオン診断)。

再発後の治療について

乳がんの転移臓器は全身にわたり、再発後の経過が長いことが特徴です。当院では総合病院の利点を生かして緩和ケア内科をはじめ多くの診療科の協力を得て患者さんのさまざまな症状に対応し、予後およびQOLの改善に努めています。緩和病棟での専門スタッフによる終末期医療は満足度が高く、今後『がんチーム医療』のモデルケースとしてアピールしていきたいと考えています。

スタッフ紹介

石川　泰	部長(化学療法担当) 兼乳腺外科部長	昭和59年卒	日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会専門医・指導医、 マンモグラフィ読影認定医（評価A）
小林　貴代	乳腺外科医長	平成12年卒	日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医、 マンモグラフィ読影認定医（評価A）

■外来診療表

医師	月	火	水	木	金
石川　泰	○午前のみ	○	手術	○	手術　検査 カンファレンス
小林　貴代	○	検査		○午前のみ	

整形外科

部長（手術調整担当）兼整形外科部長・脊椎外科センター長　**高山博行**

当科は旧県立加古川病院時代から東播磨圏域における中核診療科として整形外科の高度専門医療を提供してきました。平成21年に当地へ移転後は救急救命センターが併設され、重症3次救急にも対応すべく最新医療設備も整備されました。骨盤骨折や多発外傷、脊椎脊髄損傷などの重症症例が県内全域からも搬送されるようになり、これら重度外傷の手術症例が非常に多くなっております。またここ数年は2次救急外傷も積極的に受け入れており、整形外科全体の手術件数は昨年度1600件を超え、県内屈指の規模となりました。

■ 重症3次救急

多発外傷や骨盤骨折では、合併臓器損傷により全身状態が不良な場合も多く、救急科をはじめとする多くの科と連携、協力しながら集学的治療にあたっております。脊椎損傷では緊急で脊椎固定術を施行することもありますが、頚椎の椎弓根スクリュー挿入などに際しては、手術を安全、確実に行うためのナビゲーションシステムを導入しています。

■ 慢性疾患・2次救急

慢性疾患症例の初診紹介率も、以前より高く安定しております。さらにここ数年は2次救急外傷も積極的に受け入れを拡大しており、2次救急外傷の手術件数は昨年、一昨年と続けて500件を超え、以前より飛躍的に増加しております。

■ 骨粗鬆症

高齢化社会の到来により骨粗鬆症患者が急増しており、骨粗鬆症の治療にも力を入れております。骨粗鬆症外来（月、水曜日）だけでなく、平成28年度より「東播磨骨粗鬆症地域連携ネットワーク」を立ち上げ、生活指導、受診案内も含めた包括的な治療を地域全体で充実させることを目指しております。

■ 関節リウマチ

平成28年度よりリウマチ膠原病センターが開設され、リウマチ外科の機能も加わりました。関節リウマチによる関節、手足の変形、痛み、機能障害に対する手術を幅広く手掛けております。

■ 脊椎外科センター

当科はこれまでも東播磨圏域における脊椎外科診療の中心的な役割を果たしてきました。このたび、「脊椎外科センター」が新たに開設、運営されることとなりましたが、基本的には以前とシステムが変わるわけではありません。手術は最新の機器、手技を導入し、できるだけ低侵襲を目指しております。

当院は急性期DPC病院であり、入院に関しては手術症例が優先となり、また術後も早期に回復期病床への転院をお願いしております。外来も、症状が安定すれば開業の先生方にフォローなどをお願いすることもございますが、なにとぞご理解、ご協力お願い申し上げます。

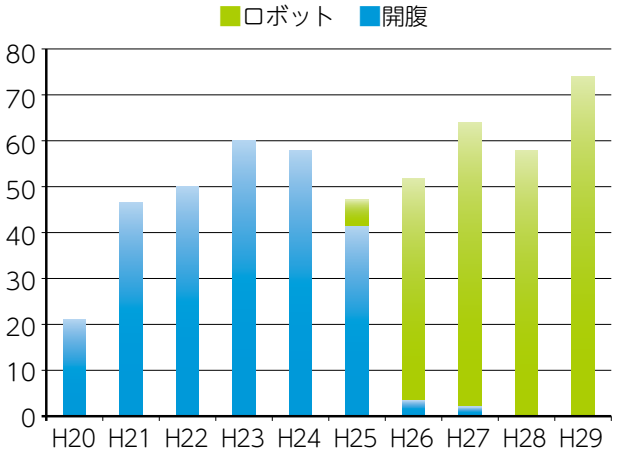
泌尿器科

前立腺癌に対するロボット手術の成績

副院長(診療支援担当)兼診療部長・泌尿器科部長　田中宏和

当院では、手術支援用ロボットである da Vinci Si を導入し、平成 25 年 9 月 12 日に最初のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術（以下ロボット手術）を行ないました。最近 10 年間の当院での前立腺全摘術の手術数の推移を表 1 に示しますが、きれいに開腹手術がロボット手術に置き換わったのがわかります。本年 3 月までに 263 例のロボット手術を経験しましたので、その手術成績をまとめました。術者は日本泌尿器内視鏡学会の腹腔鏡認定医で、ロボット手術の Certificate を取得した私と酒井先生（現加古川中央市民病院）、大場の 3 名で行いました。

表 1　最近10年間の前立腺全摘術の手術数



患者さんの年齢は 49 歳から 78 歳で中央値は 69 歳。臨床病期は癌が前立腺被膜内に限局した症例が 233 例、被膜外進展と考えられた症例が 30 例でした。

周術期の成績は、手術時間が 153 分から 540 分で中央値 267 分。ロボット使用時間は 118 分から 480 分で中央値 208 分。出血量（尿込み）は 5ml から 1100ml で中央値 150ml。輸血は 7 例に自己血輸血を行いましたが、同種血輸血を要した症例はありませんでした。入院期間は 11 日から 63 日で中央値 15 日。合併症は、早期の合併症としてイレウスを 5 例、創部感染を 6 例、ポート作成時の腸管損傷を 2 例、下肢の皮膚感覚障害を 2 例、下肢静脈血栓症を 1 例、尿閉を 1 例に認め、晩期合併症として鼠径ヘルニアを 21 例、腹壁瘢痕ヘルニアを 1 例、イレウスを 1 例、尿道狭窄を 1 例に認めましたが、多くは初期症例です。

病理学的検討では、癌が被膜内に限局していた症例が 178 例、被膜外に進展していた症例が 85 例。治癒切除の指標である断端陽性率は、前者で 5%、後者で 32.9%、全体で 10.2%ときわめて良好でした。術後成績は、観察期間の中央値が 21 ヶ月で、PSA 再発（PSA>0.2ng/ml）は 43 例（16.3%）に認め、術後の尿禁制に関しては、1 日パッド 1 枚以下の使用の割合が、術後 1 ヶ月で 46%、術後 3 ヶ月で 77%、術後 6 ヶ月で 88%、術後 1 年で 91%でした。

ロボット手術は、3D で高倍率、鮮明な画像、直観的な操作が可能、手振れ防止機能、極めて自由度の高い手術用鉗子など、実際に経験すれば、もう過去には絶対にもどれない画期的な手術です。今後も経験を蓄積して、よりよい手術が提供できるように研鑽する所存です。

初期研修医のご紹介

秋田　玄武

まだまだ右も左もわかりませんが、地域の方々にお役に立てるよう精一杯がんばっていきます。

岡﨑　仁志

同期、指導医、スタッフに恵まれ、充実した研修を送っています。まだまだ未熟者ですがよろしくお願いします！

河合　昴治

大阪から何かの縁で県立加古川医療センターで研修することになりました。“わたわた”しがちなので暖かく見守っていて下さい。

小林　大悟

６年間山口で過ごし関西に帰ってきました。ふるさと兵庫の医療発展に貢献できるよう日々精進していきたいと思います。

藤井　研己

名古屋で育ち、山形で医学生として過ごし兵庫県に来ました。関西弁をしゃべれるよう頑張ります！

村尾　直哉

世界に通用する糖尿病専門家を目指してがんばります。

県立加古川医療センター外来診療表

平成 30 年 6 月 1 日（金）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		渡部	大北	中村	立花	中村
消化器内科	1 診		垰本(さかもと)	岡田	廣畑	廣畑	垰本(さかもと)
	2 診		廣畑			白川	戎谷(えびすたに)
	3 診		尹(ゆん)				
循環器内科	1 診		福田	住本	岩田	片嶋	岩田
神経内科	1 診		木村		渡部	森本	木村
糖尿病・内分泌内科	1 診		飯田	日野	飯田	伊藤	日野
緩和ケア内科	入棟面談		担当医		担当医		担当医
生活習慣病			肝炎	糖尿病・肥満	糖尿病・肥満	糖尿病・肥満	
			禁煙	装具外来			
リウマチ科	1 診		田中	田中	田中	田中	担当医
	2 診		塩澤	塩澤	塩澤	塩澤	担当医
	3 診		村田	吉原	吉原	吉原	担当医
	4 診		中川		村田	村田	中川
腎臓内科	1 診	午前	加藤	中尾		加藤	
		午後				北浦	
外科	1 診		高瀬	衣笠	小林		高瀬
	2 診		堀川		門馬(もんま)		
心臓血管外科	1 診			西脇			西脇
脳神経外科	1 診		担当医	相原	森下	担当医	相原
	2 診			担当医	担当医		担当医
整形外科	初診 1 診		原田	中川	高山	青木	中川
	初診 2 診		岸本		市村	西原	
					原田		
形成外科	1 診		櫻井		櫻井	櫻井	櫻井
	2 診		桒水流(くわずる)		桒水流(くわずる)	桒水流(くわずる)	桒水流(くわずる)
皮膚科	1 診		濱岡	足立	足立	井上	足立
	2 診		担当医	担当医	井上	担当医	濱岡
眼科	1 診			薄木			薄木
	2 診		徳川	徳川	徳川		
	3 診			秋田	秋田		
泌尿器科	1 診		丸山	大場	田中	丸山	田中
	2 診			担当医			大場
放射線科	IVR		担当医		担当医		担当医
	治療		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

●各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。
※予約可能な診察枠を表示させていただいています。

お願い **患者様の待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。**